

表1 猪串湾赤潮プランクトン検鏡結果 令和8年7月13日 単位:細胞数/㎖

採集地点	調査時間	水深 (m)	水温 (℃)	塩分 (PSU)	溶存酸素 (mg/l)	シャットネラ sp.	カレニア ミキモトイ	ヘテロシグマ アカシオ	マーガレフィディニウム (旧)クロロディニウム ホリクリコイデス
1. 森崎	10:23	0	26.7	32.03	8.3	0	0	1725	0
		2	24.0	33.19	8.0	0	0	225	0
		5	23.3	33.73	7.4	0	0	0	0
		10	22.6	33.85	6.1	0	0	0	0
		13.1	22.4	33.80	4.9	1	0	0	0
2. 越田尾	10:04	0	27.1	31.70	8.1	0	0	1500	0
		5	23.3	33.72	7.5	0	0	0	0
3. 猪串					***				
4. 鵜の糞					***				
5. 小蒲江					***				
6. 屋形島					***				
7. 赤バエ					***				
8. 蒲江赤灯台	9:37	0	25.8	***	***	0	1	0	0
		2	24.3			0	0	0	0
9. 丸市尾	9:57	0	25.8	***	***	0	0	0	0
		2	24.9			0	0	0	0
10. みごの浦	9:59	0	24.9	33.45	7.3	0	0	0	0
		5	24.5	33.52	7.5	0	0	0	0

※0mの水温・塩分・DOはクロロテックの0.5mの測定データによる

※8,9は南部振興局採水

参考:赤潮注意・警戒密度(単位:細胞数/㎖)

プランクトン	注意密度	警戒密度
シャットネラspp.	10以上	100以上
ヘテロシグマ・アカシオ	5000以上	50000以上
カレニア・ミキモトイ	200以上	2000以上
クロロディニウム・ホリクリコイデス	30以上	300以上

* 警戒密度は漁業被害が想定される密度です。

* アワビ、サザエ等ではカレニア・ミキモトイで100～200細胞/㎖で斃死する可能性があります。

* マグロに関しては、赤潮注意・警戒密度に1/10を乗じた細胞密度とする。

* (旧)クロロディニウム・ホリクリコイデス→(新)マーガレフィディニウム・ホリクリコイデス

連絡事項

有害プランクトンのシャットネラsp.とカレニア・ミキモトイ、ヘテロシグマ・アカシオが確認されました。

また、灘内漁港(森崎)地点の表層で、ヘテロシグマ・アカシオが警戒密度を超えて確認されました。

(最大54,300 細胞/㎖、着色あり)

森崎、越田尾地点も増殖が確認されています。

今後の細胞密度の推移にご注意ください。

